

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	12.2(木)	天神山	発言者A	<p>天神山小学校がなくなるという計画を示されたときは驚いた。そのときに真っ先に思ったことは、このように素晴らしい学校をなぜなくすのか、あり得ない、ということ。</p> <p>天神山小学校は地下道があり、通学面で安全。こういった環境は岸和田市内で他にないと思う。保護者にとっても安心だろう。</p>	<p>天神山小学校をこれまで支えていただいた地域の皆様が、学校が閉校となる案について疑問を持たれることは理解する。</p> <p>児童生徒の通学上の安全確保については、最重要事項として認識しており、通学路の点検及び安全確保のための取組については、しっかりと行っていく。</p>
2	12.2(木)	天神山	発言者A	<p>小規模化の課題について挙げているが、むしろ良さが勝っていると考え。きめ細かな指導、一人ひとりの子どもを全校の教員が把握しているといったメリットがある。そういう学校をなくすことについて、何度説明を受けても疑問は変わらない。</p>	<p>児童生徒数の減少が進み、学校が小規模化している中、小規模校には良い面も多くあるが、子どもたちのより良い教育環境を考える上での課題も多いと認識しており、今回の実施計画（案）をお示ししているところ。</p> <p>なお、小規模校については、よりきめ細かな教育が可能であることが重要なメリットだというご意見も当然あると思う。</p> <p>一方、現在はこれまでの社会から大きく変化している。以前は右肩上がりの経済成長が続く中、地域の中で経済が回り、地域の中で生計を立て、一生を過ごすことができた。現在は終身雇用制度も崩れ、先行きが不透明であり、また、世界と伍していかなければならないグローバル化の進展が著しい社会となっている。その中で、これまでのような知識偏重の教育ではなく、多くの意見をともに交換し、新たな答えを見出していくことが必要であり、そのためには小規模校よりも、一定の集団規模が確保された学校の方が、集団での教育活動がしやすいという利点がある。よって、教育委員会としては、適正な学校規模を確保していくことが、より重要だと考えている。</p> <p>ただ、考え方は様々あり、それらのご意見は尊重されるべきものであるため、一致できるところについては一致し、そうでないところについては、意見がどう異なるのか、地域、保護者、教育委員会の考え方をつづさに市民や市議会にお示しし、判断を仰いでいくべきだと考えている。</p>
3	12.2(木)	天神山	発言者A	<p>この地域にやってきたときのことを思い返すと、近くに小学校があるから転居先を決めたということがある。周りにも、そういった人が多い。天神山町の中にある天神山小学校を、別の場所へ、しかも中学校と一体化させるということは、非常に問題がある。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
4	12.2(木)	天神山	発言者A	<p>天神山町内のアンケート結果によれば、87%の方が「天神山小学校を残してほしい」と回答している。前回の説明会での発言を聞いていても、ほとんどは天神山小学校を残してほしい旨の内容だったと記憶している。このことをどのように捉えているのか。</p>	<p>アンケート調査結果については、今年4月に「小中学校を考える会 天神山」からお示しいただき、全世帯の約15%、おおよそ200件の回答があり、そのうち87%が、今回の計画（案）に反対の意向を示されたと同った。その他、記載されている様々な具体的なご意見についても拝見した。皆様の率直なご意見だと理解している。</p> <p>一方、地域説明会等で、教育委員会の考え方を聞きいただく前のアンケート結果であるため、今後十分に説明を尽くし、多くの賛同が得られるよう努力していく。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
5	12.2(木)	天神山	発言者A	<p>地域コミュニティ活動が非常に盛んであり、その拠点となっているのが小学校である。花火大会や体育大会といった地域行事を開催するにあたり、代替地はあるのかといった質問もあったが、教育委員会は「市長部局とともに検討する」といった回答だったと思う。学校跡地の売却についての質問に対しては、売却しない旨明言がなかったため、不安に思っている。再度お尋ねしたい。</p>	<p>市民協議会や町会の皆様をはじめ、通学の見守り隊といった地域の皆様が子どもたちを見守り、育んできていただいたことに、感謝申し上げます。</p> <p>天神山小学校が仮に閉校となった場合、地域コミュニティも新たな校区に一本化されるということは想定しておらず、以降のあり方については、地域の皆様が主体的に判断されることだと考えている。その中で、行政としても、活動場所の確保等、可能な限りサポートに努めていく。</p> <p>跡地活用について、前回の地域説明会において、仮に学校が閉校となった場合の跡地について「売却しない旨を明言せよ」という趣旨のご意見があった。跡地活用については、地域の皆様と十分協議し、ご意見を踏まえながら望ましい方向性を見出したいということが基本的な考え方である。</p> <p>一方、天神山小学校の校地・校舎は、地域の皆様にとっての貴重な財産であると同時に、市民全体にとっての貴重な財産でもある。</p> <p>また、天神山地域の今後を考えた際に、例えば高齢化が進む中、新しい住民を増やすために住宅地として活用した方が良いのではないかと、というご意見の方もおられるかもしれない。そういったことも含め、跡地活用については、地域の皆様と十分に協議を行う必要があることから、現段階で売却しないとは明言しかねる。</p> <p>ただし、地域の皆様のご意見を聞かず、「一方的に」売却することはしない旨は、前回の説明会でも回答したところ。</p>
6	12.2(木)	天神山	発言者B	<p>幼児教育を含めた一貫教育、子どものために、といった説明があったが、この場に若いお母さんがほとんどいない。自分もたくさん声をかけたが、小さな子どもがいる家庭からすれば、18：30という時間帯は参加が難しい。またこの地域ではひとり親世帯も増えている。日曜日は東岸和田市民センターで開催されたが、なぜ学校の体育館ではなかったのか。</p> <p>グローバル化する社会を生きる子どもたちのため、と言うが、大事な説明会の開催にあたり、そういった配慮がないのはいかがなものか。</p>	<p>子どもたちのために、という点については、子どもたちにとってのより良い教育環境の整備と学校教育の充実を実現するために、小規模校の課題を解消し、適正な学校規模を確保する取組を進める必要があるという考えからである。</p> <p>説明会の日程については、様々な方からご意見を伺う必要があることから、平日夜と、土日の2回ずつ開催することとした。また、ホームページを通じて、都度ご意見をいただけるよう、問合せフォームを設けている。今回の地域説明会を2回開催して終わりということではなく、今後、より良い案の策定に向けた話し合いを引き続き実施していく。</p>
7	12.2(木)	天神山	発言者C	<p>4月実施の天神山町アンケート結果について、先ほど発言された方も仰っていたように、87%が天神山小学校を残してほしいという結果であったが、教育委員会からは「これから説明会を実施していき、丁寧に説明し理解を求めていく」といった回答であった。</p> <p>では、この後住民意見をどのように集約していくのか。例えば教育委員会がアンケート調査を実施してくれるのか。</p>	<p>今後の住民意見の集約及び取組の進め方については、地域説明会終了後、校区によってどういった立場の方になるのかは変わってくると思うが、地域の代表者と相談しながら、決定していく。</p> <p>アンケート調査の実施についても、今後の協議の中で必要性も含め、検討していく。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
8	12.2(木)	天神山	発言者C	<p>愛知県で、中学3年生が同級生を刺殺するという事件があった。いじめが原因かどうかはよくわかっていないが、岸和田市ではどうなのか。ということで、岸和田市教育委員会の評価委員会の傍聴へ行った。</p> <p>その中で、いじめの件数が令和元年度から令和2年度にかけて2倍に増加し、中学校での暴力事件も3倍に増加しているとあった。</p> <p>このような状態で、小学生と中学生が同じ敷地で学ぶとなれば、中学生の様子を見て、小学生がそういった行動に憧れないか心配している。</p>	<p>評価委員会で、いじめ及び暴力行為の件数が増加しているといった話があったことはご紹介のとおり。</p> <p>市全体として、いじめや暴力行為だけでなく、不登校といった様々な課題を抱えている状況。その中で、気づきにくい小さなトラブルを含め、いじめ事案を見逃さないように取り組んでいるところ。それにより、いじめの「認知件数」が増加しているが、今後も学校と連携しながら、一つひとつの事案に対し、解決に向けて取り組んでいく。</p> <p>暴力行為についても、子ども同士の事案、教員に対する事案、器物破損等、様々なものがある。岸和田市では件数が多く、中学校だけではなく、小学校を含めて問題になっている。</p> <p>そのような中、中学生が小学生に悪い影響を与えないように取り組んでいくことは、現在でも、また今後においても大切なことだと認識している。</p> <p>中学生が小学生の良い見本になれるように、小・中学校の連携についてもしっかりと取り組んでいく。</p>
9	12.2(木)	天神山	発言者C	<p>以前、教育委員会に学校のトイレに関する質問状を提出した。各小学校におけるトイレの数と児童数、また小中一貫校になった場合のトイレの数を教えてほしいという内容であった。</p> <p>回答には、現在のトイレの数と児童数は記載があったが、小中一貫校になった際のトイレの数については一切記載がなかった。文章で「今後、本計画案が確定した段階で、地域、保護者の皆様のご意見等も踏まえつつ、具体的な設計業務に着手してまいります」と記載があった。</p> <p>統合された場合の児童生徒数は一定把握しているのだから、それに応じたトイレの数も、全国の事例から一定の基準があるはず。なぜ回答いただけないのか。数字での回答をはっきりと求めたのに、答えていただけないようでは、今後丁寧な説明を行うとしているが、地域の理解を得られないのではないか。</p>	<p>現段階で、（仮称）葛城小中一貫校におけるトイレの数は確定していない。今後、校舎のレイアウトを検討する中で、児童生徒数や、地域・保護者の皆様のご意見を踏まえながら、設置数及び場所について決定していく。</p>
10	12.2(木)	天神山	発言者C	<p>今の天神山小学校は児童数が少ないので、トイレの数についてはさほど心配がいらぬ。しかし、3つの小学校が統合されれば、トイレの順番待ちが必要になる可能性もある。粗相をすれば大ごとになり、子どもたちがかわいそうだという観点からの質問であった。</p> <p>改めてでもいいので、具体的な数値をいただきたい。</p>	<p>トイレについて、学校の規模により、児童生徒1人あたりの個数は異なるが、どの学校においても、児童生徒が不自由することのないように計画していく。</p> <p>ただし、校舎のレイアウト、それぞれの教室からの距離といった様々な要素がある中、ベストな形が定まっていない以上、現段階では具体的な箇所や便器の数についてはお示しできないという見解であり、再度お尋ねいただいても、同様の回答となる。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
11	12.2(木)	天神山	発言者C	<p>評価委員会で、委員からいじめ解消率の質問があった。それに対する回答は、90%とのことであった。これが高いか、低いかは評価があると思うが、10%はまだいじめが解決していないということ。そういう現実があるから、小学生と中学生が一緒になることに大きな心配がある。以前のアンケート調査でもそういった意見があったことから、それを代弁している。具体的な返答を願う。</p>	<p>いじめについて、全体の10%が未解決という現状についてはお詫び申し上げます。ただ、教員は必死になって家庭や地域と連携しながら解消に努めており、今後も取り組んでいく。</p> <p>なお、他市の小中一貫校を視察した上では、中学生が小学生の模範になろうと、大きく成長したという事例や、小さな子どもも中学生と触れ合う中で活動的になり、明るくなったという事例を伺っている。それは、視察した学校だけでなく、文科省が示している小中一貫教育の成果というデータにおいても、上級生が下級生の手本となろうとする意識が高まったという項目について、全体の70%以上がそうした評価をしている。</p> <p>このように、小学生と中学生が同じ敷地で学ぶことの成果については、評価すべきことだと考えている。</p>
12	12.2(木)	天神山	発言者D	<p>児童数が減少しているから、学校を統合し、小中一貫校にするということだが、その前に、天神山地区の府営団地及び住宅供給公社団地にかなりの空き家がある状況を改善し、若い世代の方々に来てもらえるような魅力ある方策を考えていただけないか。教育委員会の所管ではないかもしれないが、行政は一本だと思って意見させてもらう。</p> <p>他の校区はだんじり祭があり、子どもから高齢者までのつながりがある。天神山地区にはないため、学校がなくなればつながりがなくなってしまう。自身も毎朝のあいさつ運動に参加しているが、低学年の児童が、目をこすりながら遅れて登校してくることも多い。ぜひ、子どもの立場にたって考えていただきたい。</p>	<p>大規模な団地開発がされた地域はいずれも、年月が経ち、高齢化が進むとともに、入居者が減少していくという課題を抱えている。それを受け、大阪府住宅供給公社では、若い世代を新たに呼び込むため、団地の2戸を1戸にリノベーションし、魅力を高める「ニコイチ」の取組や、入居者に自由なリフォームを認め、現状回復を求めないという取組を行っている。</p> <p>ただ、天神山地区において、そのような取組が実際に行われているかは把握していない。追って確認させていただく。→【追記】</p> <p>いずれにせよ、少子高齢化が進む中、地域の活性化を図る方策は非常に重要となっているため、ご意見については市長部局へしっかりと伝達する。</p> <p>【追記】</p> <p>確認したところ、天神山A団地及び天神山B団地において、入居者によるリフォーム（DIY）を認め、現状回復を求めない取組を行っているが、「ニコイチ」については行っており、現時点では、今後実施の予定はないということであった。</p>
13	12.2(木)	天神山	発言者E	<p>以前、修斉校区の地域説明会に参加し、天神山校区、修斉校区、また門前町を含めた合同説明会を実施してほしい旨を意見したが、どうか。</p>	<p>地域説明会の終了後も、地域の皆様とより具体的な協議を重ねていく予定であり、今後の協議方法については、校区によっても変わってくる可能性はあるが、それぞれの地域や保護者の皆様のご意見を踏まえ、決定していく。合同説明会についてのご意見も、参考にさせていただく。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
14	12.2(木)	天神山	発言者E	<p>資料27ページに、通学環境の変化に関する記載がある。仮に天神山小学校がなくなった場合、現在の葛城中学校へ通学することになるが、水道みちを通るパターンと、八田町内を通るパターンがある。実際には、畑を縦断して通学している生徒がいる。これは40年前から続いており、自身も歩いたことがある。正面に学校が見えている中、まっすぐ進んで畑を縦断することは、禁止されていると聞くものの、ある種当然だとは思ふ。</p> <p>八田町内を歩くのは、特に小学校低学年の児童からすれば、少し怖いと思う。水道みちからも、神須屋町南交差点付近は歩道が途切れており、怖くて子どもを歩かせられない。過去にはトラックが突っ込んでみいる。</p> <p>子どものため、現在の葛城中学校まで直進できる、歩道付き通学路を新設していただきたい。</p>	<p>教育委員会でも、天神山小学校から葛城中学校までの道路や、近辺を歩いて実地確認を行ってきたところ。</p> <p>地域の皆様からいただく「こちらの通学路の方が安全だ」というご意見については、児童生徒の通学環境を考える上で、教育委員会と地域の双方から見て、より望ましいと判断できれば、採用を検討していく。</p> <p>新たに道路を敷くことについては、地権者との調整といったハードルが考えられるため、現時点で方向性を明言できないが、通学路の安心安全を確保することは、最重要事項と認識しているので、（仮称）学校開校準備委員会においてもしっかりと協議していく。</p>
15	12.2(木)	天神山	発言者E	<p>仮に天神山小学校がなくなったとして、跡地について、第三者に販売し、住宅地にする可能性もあるといった回答があったと思うが、前回の説明会ではそのような回答ではなかった。</p> <p>小学校は地域の防災拠点であり、ここがなくなれば、避難する場所がなくなる。東日本大震災でも、車で公園や小学校の運動場に集まって過ごしているという状況であった。近隣の修斉小学校も今後どうなるかわからない中、仮に学校がなくなった場合でも、跡地を防災広場・スポーツ公園にして、避難場所として確保することを確約した上で話を進めてほしい。</p>	<p>前回の説明会でも、今回の説明会でも、跡地活用については、地域の皆様のご意見を伺いながら決定し、一方的な売却はしない旨を回答しており、考え方も同様である。</p>
16	12.2(木)	天神山	発言者F	<p>市民に大きな痛みを強いる施策の説明会に、市長が出席しておらず、幼保再編や、市長公約でもあった中核市推進に関する説明会にも、これまで一度も出席してこなかったことに、怒りと不安を感じている。</p>	<p>今回の実施計画（案）は、市長を含む特別職が参加した「政策決定会議」における承認、方向性の一致を経た上で、皆様にお示ししている。</p> <p>いただいたご意見については、市長へ伝達する。</p>
17	12.2(木)	天神山	発言者F	<p>先ほど、団地における人口増加施策についての質問があったが、教育長が答弁するよりも、住宅供給会社の前理事長である副市長が出席していた方が、より具体的な話が聞けたのではないかと思う。</p> <p>また、市長部局の職員が出席していないことについて、避難所に関する質問に対しても、危機管理課の職員がいれば具体的に話ができたと思われるので、以降の機会においては、様々な担当課の職員が出席し、市民が安心できるよう、広範な質問に適切に回答できる体制で臨んでいただくようお願い。</p>	<p>これまで、市長部局の避難所担当課、地域コミュニティ担当課、都市計画担当課といった関係部局と協議を重ねた上で、実施計画（案）の策定に至っている。</p> <p>今回の地域説明会では、教育委員会が責任を持って実施計画（案）の内容を説明しているが、今後の協議にあたっては、関係部局から職員が参加することも検討する。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
18	12.2(木)	天神山	発言者F	<p>岸和田市の人口動態を確認すると、年間約2000人ずつ減少しており、歯止めがかかっていない。人口増加施策を怠っているのではないかと疑問を持っており、その中で児童生徒数が減少したからといって学校をなくす、ということでは、学校がなくなることで子育て世代がさらに離れていく。さらなる人口減少を招き、岸和田市をゴーストタウンにするつもりなのかと尋ねざるを得ない。</p> <p>明石市の施策がすべて正しいこととは思わないが、あのような人口増加施策をまったく取っていない岸和田市が、現状に合わせて施設を減らしていくという矛盾についてお答え願う。</p>	<p>人口増加施策については、しっかりと取り組んでいく必要があると考えており、これまでも、子育て施策の拡充や企業誘致によって、人口増加をめざしてきたところだが、人口減少が続いていることは事実。皆様からのご意見やご指摘についても、関係部局と共有し、今後も市全体で取り組んでいく。</p>
19	12.2(木)	天神山	発言者F	<p>児童生徒数見込みについては説明があったが、人口減少が続く中では、現状の見込みから、さらに加速度的に減少していく恐れもある。その場合、現在の計画（案）よりも学校を減らしていき、最終的には1校にするまでいくのか。どこを歯止めと考えているのか。</p> <p>近隣市に、ここまで極端な学校統廃合を行った自治体はあるか。仮にないのであれば、なぜ岸和田市において、他に例のない規模での統廃合を進めようとしているのか。</p>	<p>実施計画（案）の策定にあたっては、各学校の規模や配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を総合的に勘案しており、中学校区を単位としてお示ししている。</p> <p>仮に、この取組により、新たな学校を開校して以降、急激に児童生徒数が減少するなどして、例えば複式学級が見えてくるといった状況になれば、中学校区を超えた適正化を検討する可能性もあるが、基本的には、中学校区を単位とした適正化を実施していきたいと考えている。</p>
20	12.2(木)	天神山	発言者F	<p>グローバルな社会といった説明があった中、アクティブラーニング、互いに議論をする教育は望ましいことだと思う。</p> <p>一方、主権者教育の中でアクティブラーニングを取り入れた際に、市議会から「偏向教育ではないか」という声が飛んでくる。そこに対抗することは難しいのではないかと。理想は良いのだが、現状で理想に即してどこまでやっているのか。現状の説明と、抱える課題、改善策を示した上で、市民にお願いをすることが望ましいのではないかと。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
21	12.2(木)	天神山	発言者G	<p>以前の説明会で、校舎の老朽化が課題となっており、建て直すならば集約した方がいいという説明があったように思う。</p> <p>こんな立派な体育館が、老朽化しているといえるのか。老朽化しているというのであれば、あと何年で改築しなければいけないという具体的な話を示すべき。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
22	12.2(木)	天神山	発言者G	<p>小規模校の何が悪いのか。教育にお金や手間がかかるのは当たり前。</p> <p>岸和田市の学力が低いという説明もあったが、葛城校区の小規模校3校、どの学校の学力が低いのか。学校名は言わなくてもいいので、具体的な説明を願う。それがなければ、今回の説明は間違いである。</p> <p>この3校はいずれも学力が高いはずであるのに、学力が低いから統合するという説明はおかしい。夜間の特別手当をもらいながら間違った説明をするのは、公務員としての恥である。真面目にやってほしい。</p>	<p>小規模校が悪いとは申し上げておらず、良い面もあるが、課題が多いと認識している。</p> <p>将来にわたり、より良い教育環境を子どもたちに提供していく上では、適正な学校規模を確保する必要があるという教育上の観点からの説明であることにご理解願う。</p> <p>学力が低いから学校を統合するとも申し上げておらず、これからの社会において、子どもたちは多くの意見に触れ、ときには意見を戦わせ合いながら、新しい考えを見出していくこと、集団の中で生きていく力をつけていくことが重要であり、そのために適正な学校規模を確保することが、今回の取組における主眼である。</p> <p>一方、小規模校のきめ細かな指導に重きを置くご意見もあり、それぞれのお立場や考え方からのご意見は正しいことだと思う。</p> <p>教育委員会は、先ほど申し上げた理由から、適正規模・適正配置の取組が必要だと考えており、意見が一致するところ、意見が異なるところ、それぞれを市民や市議会の皆様に提示し、最終的な判断を仰いでいく。</p> <p>なお、学力に関する説明は、小中一貫教育基本方針における説明の中で触れたものだが、現在も小・中学校間の連携を行っている中、さらなる充実をめざすために市全域で小中一貫教育に発展させていくという旨を説明したのであって、小規模校の学力が低いといった説明内容ではない。現場の経験から、小規模校の良さについても認識している。</p> <p>学力向上のため、小・中学校の連携及び小中一貫教育を含め、様々な方策を講じていく必要があると認識している。</p>
23	12.2(木)	天神山	発言者G	<p>小学校が廃校になるかどうかという説明会の冒頭あいさつの中に、「ラグビーなら15人が必要」ということがあった。小学生がラグビーをするのか。元教員として疑問に思う。例に挙げるにしても、中学校や高校と混同せず、小学校向けの説明をすべき。</p>	<p>本日は天神山小学校と、（仮称）葛城小中一貫校に関する説明を行っている。冒頭のあいさつでも、中学校の部活動を例に申し上げているため、小学校で野球やラグビーをしている旨を申し上げているわけではない。</p>
24	12.2(木)	天神山	発言者H	<p>中学3年生と小学1年生が共存できるのかと不安に思っている。カモ知識も異なり、性に対する知識も異なる。</p> <p>自身が中学生の頃を思い返すと、授業中に廊下を歩いているような生徒もいた。そのような生徒を小学校低学年の児童が見るとなれば、教員が収められるとも思えない。</p> <p>共存できるというのであれば、説明してほしい。</p>	<p>小中一貫校の先進事例からは、これまで落ち着いたなかった中学生の様子が、小さな子ども模範となるような姿勢に変わってきたという事例も伺った。</p> <p>また、小中一貫教育を行う学校の数について、令和2年度時点での小学校で745校、中学校で430校、小・中学校が一体となった義務教育学校で126校が存在しているように、十分な実績が積み重ねられており、成果についても肯定的なものが多いと占める。</p> <p>なお、今後も、小中一貫校及び義務教育学校は増加していく見込みとなっている。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
25	12.2(木)	天神山	発言者I	<p>まちづくりについて総合的なプロデュースを望む。天神山町が今後どうなっていくかはわからないが、希望もある。その中で学校だけがなくなってしまう計画になっており、他の校区を見ても気になる点がある。</p> <p>山直南地区ではゆめみヶ丘の住宅開発が進み、これから大きくなっていくのではないかと。その半分が山直北小学校に行き、（仮称）山直小学校になると、1000人規模の大規模校になるのではないかと。1000人を超えて増加していく可能性もあると危惧しているが、そのあたりの説明がされていない。</p> <p>例えば、光明小学校は20年前は学年あたり1クラスの学校だったため、今であれば廃校になっていたかもしれない。しかし、現在は児童数が増加し、過密な学校になり、子どもたちの生活に不自由が生じている。そういったことを見通しながら、人口増加施策と一緒に考えて考えるべきだと思う。</p>	<p>これまで、市長部局のまちづくり担当課とも協議を重ねながら、実施計画（案）の策定・公表に至っている。</p> <p>教育委員会として、中学校区を単位とした適正化を提示しているが、この考え方が、これまでのまちづくりを逸脱したものとは捉えていない。</p> <p>山直南地区のゆめみヶ丘においては、今後住宅開発が進み、最終的には1000人規模のまちが完成すると想定しており、児童生徒数についても、現時点で可能な推計を行っている。</p> <p>ゆめみヶ丘のまちづくりが完成した暁には、山直南小学校の児童数が最大で250人程度に増加することを見込んでいるが、教育委員会が示す適正な学校規模である12～18学級には届かないものと考えている。</p> <p>今後は、地域の皆様が想定している児童生徒数と、教育委員会が推計している児童生徒数を突き合わせて協議していきたい。</p> <p>光明小学校の例を挙げていただいたが、今後の住宅開発については、まちづくり担当課から情報を収集し、適宜意見交換を行いながら、把握に努めていく。</p>
26	12.2(木)	天神山	発言者I	<p>天神山小学校では、幼稚園教育と連携した教育をスタートし、メディアにも取り上げられ、実績を積んできた。また、幼稚園給食を市内で初めて取り入れたが、岸和田市では拡大せず、隣接する貝塚市から見学があり、現在では貝塚市において幼稚園給食が実施されている状況。貝塚市ではアフタースクールも導入するなど、待機児童解消に向けて取り組んでいる。</p> <p>天神山小学校・幼稚園も、そうした方向性で進んでいたのに、急に方向転換が為された。</p> <p>方針に科学的な根拠がない上に、計画性もないと申し上げておく。</p>	<p>取組の根拠について、国の中央教育審議会では、適正な学校規模についての議論を重ね、文科省が適正規模・適正配置等に関する手引を策定しており、その中で適正な学校規模を12～18学級と示している。</p> <p>また、岸和田市においても、適正規模及び適正配置基本方針の策定に先立ち、学識経験者や、PTA、民生委員児童委員、町会連合会といった各ご代表の皆様で構成する審議会を設置し、適正な学校規模に係る議論を行っていただいた結果、12～18学級が望ましいという答申を受けた。</p> <p>さらに、各学校の児童生徒、保護者、教職員を対象としたアンケート調査も実施した結果、同じく12～18学級が望ましいという回答が多数を占めた。</p> <p>これらを踏まえた上で、教育委員会としての基本的な方針を定めている。</p>
27	12.2(木)	天神山	発言者I	<p>幼稚園や保育所から進学してきたばかりの小学1年生から小学6年生までが集まって、小学校として構成されている。小学校低学年への指導を経験したことのない教員が、小学1年生を指導しても、話が通じない。小学1年生にとって、大人の話は理解しにくく、じっと座って授業を受けにくい。小学1年生には、それに適した指導が必要な中、中学3年生まで一緒にするというが、教員の免許も異なる。</p> <p>小中一貫校には全国的な実績があるというが、教育学を勉強している中で、その教育内容が素晴らしいものだという結果や科学的な資料は見受けられない。</p> <p>思春期を迎え、なかなか落ち着かない中学生と、小学校低学年の児童と一緒に教育を受けることが素晴らしいとはとても断言できない。科学的な根拠がどこにもないのだから。</p>	<p>小学校の教員は、どの学年も担任することになるため、高学年には高学年なりに、目標に沿って指導をしていき、入学間もない1年生は、言葉で説明してもなかなかかわからないため、場面や物を使いながら丁寧に指導すること意識している。</p> <p>教員免許に関して、中学校の教員は自分の教科について、小学生に授業を行うことが可能。例えば中学校の英語教員は、小学校で英語を教えることが可能だが、免許制度上、他の教科は教えられないため、ルールの中で乗り入れ指導を行っていくことになる。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
28	12.2(木)	天神山	発言者I	<p>なぜこのコロナ禍において、わざわざ密をつくるような計画を進めようとしているのか。</p> <p>天神山小学校では、コロナ禍においても学校行事をうまく実施できてきたし、感染症の影響で休む児童はいたかもしれないが、校内が一斉休校になるようなことはなかった。子どもたちはコロナウイルスの影響による悲しいこと、辛いことを、比較的経験せずに過ごしてこられている。</p> <p>正しく恐れるというが、現在オミクロン株の影響が懸念される中、今後もウィズコロナの時代は続き、密を避ける、手指を消毒する、マスクを着用するといった3つの対策が継続して必要になると、どの科学者も述べている。</p> <p>そのような中で、岸和田市長と教育委員会は密をつくる方向へ舵をきろうとしている。こんな酷いことはない。</p> <p>仮にこの計画の内容が素晴らしいことであったとしても、コロナ禍においては一旦立ち止まるべきではないか。今後、不登校や自傷行為といったコロナの災いが子どもたちに降りかかってくる。状況を見極める必要がある。</p>	<p>感染症の専門家が、ウィズコロナの時代が未来永劫続いていくと述べているという事実は確認できていない。</p> <p>正しく恐れるということは、噂に振り回されず、科学的なエビデンスに基づき、冷静に行動することだと理解している。</p> <p>文科省においては、専門家の意見を聞きながら、学校の中で適切な感染対策をとるようになり、と通知し、岸和田市においても、市民の皆様のご協力を得ながら感染対策を行ってきたところ。</p> <p>そのような中、文科省から「学校規模が大きく、ウィズコロナの時代に合わないため、学校を小規模化せよ」といった通知は一切出ていない。今後も、文科省の基準に沿って、適正規模・適正配置の取組を進めていく。</p>
29	12.2(木)	天神山	発言者I	<p>教育方針に暖かみがなく、科学的に真実だと思わせられる内容でもない。</p> <p>また、本日の市出席者は男性ばかり。女性なら、自分の子どもや孫のことを考えると、とてもじゃないがこのような方針は出せないと思う。男性の考えが強く表出しているように思われる。</p>	<p>改革には痛みが伴い、時には市民の皆様にとって耳の痛いことも申し上げなければならず、またご負担をかけることを申し上げる場面もある。</p> <p>これを「暖かみがない」とされることは、致し方ないことだが、子どもたちの将来の教育に必要なことであれば、冷たいと思われることや、耳の痛いことも、教育環境の改善及び、良好な教育環境を維持していく観点から、お伝えすることが我々の仕事だと認識している。</p>
30	12.2(木)	天神山	発言者J	<p>小規模化の問題を解決するのに、大切な小学校を7校もなくさなければならぬのか。現在は計画（案）ということで、別の方法はないのか、と思う。</p> <p>昨年まで小学校でフルタイム勤務をしており、コロナ禍で大変な状況だったが、クラス毎に半分の人数で、担任教員が指導をする「分散登校」については、授業のやり取りを含め、落ち着いてでき、本当に良かった。以前から少人数学級を望んでいたが、利点が証明されたように感じた。</p> <p>今回適正化対象になっている小規模校は、クラスを半分に割らずとも、少人数になっていた。むしろこの環境を活かすチャンスなのではないか。</p> <p>また、学校が一度なくなってしまうと、もう戻らない。それぞれの学校が持つ特性や良さは、地域に根付いており、東葛城小学校の特認校制度も、その良さが出ている。</p> <p>それらを同じ学校敷地に集め、適正規模が確保された学校にするとということが、本当に良い方法なのか疑問に思う。</p>	<p>今回の計画（案）は、教育委員会と市長部局が協議を重ね、最終的には教育委員会の責任において提示しているもの。策定にあたっては、各学校の規模や配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を総合的に勘案している。別の方法はないのか、という点に関しては、今後、子どもたちのより良い教育環境に資するご意見をいただき、それが教育委員会としても望ましい案だと判断できれば、計画（案）に反映することを検討する。</p> <p>また、適正規模・適正配置の取組は、1校あたりの人数である「学校規模」について適正化を図るものである。</p> <p>1クラスあたりの人数である「学級規模」については、教育委員会としても少人数であることが望ましいと考えており、都市教育長会議等を通じ、国や府へ少人数化の要望を行ってきた。今後も継続していく。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
31	12.2(木)	天神山	発言者J	<p>中1ギャップについて、中学校への進学が良いきっかけになることも事実。学校行事は子どもたちにとって大切であり、現在、不登校の子どもたちと関わっているが、修学旅行を機に学校へ行けた子どもがいた。</p> <p>これと同じように「中学校に行ったら頑張る」という変わり目、リスタートの機会は重要。中学校入学式に向けて頑張り、そこが新たに登校できるきっかけになることもある。「小学校最後の年は大切にしよう」ということも大切で、小学校最後の音楽会は頑張ろうといった気持ちにつながる。これが、7年生、8年生、9年生となり、同じメンバーと過ごすということが、どうなのか。現在は、複数の小学校から、それぞれの特色を持った子どもたちが新たに顔を合わせ、新鮮な気持ちでスタートできる。</p> <p>現状は計画（案）ということだが、突然7校の学校をなくすということが、本当にどうなのか、という疑問を持っている。</p>	<p>中学校への進学という変わり目をきっかけに、頑張ろうという気持ちで臨んでいる子どもは確かにいる。</p> <p>一方、その環境変化に対応できず、苦しんでいる子どもがいることも事実。</p> <p>その中で、小学校と中学校の連携が大切だということは先ほど説明したとおりだが、これを今後発展させていくというのが、小中一貫教育基本方針の内容となっている。</p> <p>現在、小中一貫教育推進会議において、具体的な取組について討議を重ねているところだが、適正規模・適正配置の取組が行われていない、現在の24小学校、11中学校という状況においても、小中連携の取組と、それを発展させた小中一貫教育は必要だという考えである。</p> <p>市全体で小中一貫教育を進める中で、可能な校区については施設一体型もしくは隣接型の小中一貫校を整備する方向性だが、従来の分離型でも小中一貫教育は行っていく。</p> <p>また、7年生、8年生、9年生という形態は、小・中学校の枠組みをなくした「義務教育学校」におけるもの。現在お示ししている案では、小学校は小学校、中学校は中学校で、それぞれ卒業・進学することを考えているが、義務教育学校の方が教育効果が高いということであれば、そちらも検討する。</p> <p>なお、義務教育学校の先進事例からは、1～4年生、5～7年生、8～9年生の3段階に分け、それぞれの区分ごとに、最高学年としての取組を行っているとも伺っている。岸和田市においても、今後十分に議論し、あり方を決定していきたい。</p>
32	12.2(木)	天神山	発言者K	<p>10年後の人口予測は、社会的条件や地域条件に大きく左右されるため、ほぼ当たらないもの。</p> <p>天神山小学校がなくなれば、この地域での人口減少、特に若い世代における減少は、大きく加速するだろう。自身も家探しをした際には、保育所や小学校が近くにあるかどうかを重視したため、それらがなくなれば、将来にわたり、若い世代が天神山地域に住むことはなくなると考える。</p> <p>まちづくりに関しては市長部局と話し合っており、考えているといった説明があったが、詭弁だと思う。</p> <p>以前から、都市計画マスタープラン等で、葛城の谷をどうするかといった計画が示されており、最近でも様々な開発計画があると思うが、それに基づいてどう、といった説明はまったくない。天神山地域を今後どうしていこうと考えているのかをしっかりと示した上で、学校を廃校にするといったことを提示しなければ、地域住民は納得できない。</p>	<p>教育委員会が示す児童生徒数の推計については、令和9年までは、実際に校区に住む子どもたちが、転出入なく年齢を重ねた場合の推計値を示しており、令和10年以降は、校区ごとの出生率を参酌した上で推計している。</p> <p>市長部局が示す人口推計を含め、現時点で判断できる資料を基にしながら、取組を進めている。</p> <p>小学校が閉校となった地域がどうなっていくのか、と心配されることは当然のことだと思うが、教育委員会としては、より良い教育環境の整備を実現することにより、人口減少に歯止めをかけていきたいと考えている。</p> <p>なお、市長部局のまちづくり関係課より、現状、岸の丘町以外での急激な人口増加はないと伺っている。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
33	12.2(木)	天神山	発言者L	<p>教育委員会は、以前より学校施設の老朽化についても課題に挙げており、動画配信された教育長メッセージでも触れられているが、最近の説明会では老朽化に関する言及がない。児童生徒数の減少と学校の小規模化についての言及だけ。</p> <p>別校区の説明会で、これに関する質問があった際、教育委員会は「経費の問題ではない」といった答弁を行った。学校の老朽化は課題として捉えなくなったのか、それとも重要度が下がったのか。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組における最大の目的は、子どもたちにとってより良い教育環境の整備と、学校教育の充実である。</p> <p>一方、今後仮に現在の計画（案）が進んだ場合、校舎の建替えや、通学路の安全確保に係る予算が必要となるが、教育委員会に予算編成権はなく、市長部局に予算要求を行い、議会に提案し、議決を受ける必要がある等、今後は経費に係る話も生じてくる。</p>
34	12.2(木)	天神山	発言者L	<p>岸和田市では幼小連携教育を謳っているが、今回のスライド資料には施設一体型で唯一取り組んでいる天神山幼稚園に関する記載がまったくない。他園は施設隣接型で取り組んでいる。</p> <p>市内で唯一幼稚園給食も実施していることから、2年前には貝塚市の教育長が視察に訪れ、現在の貝塚市では、ほぼ全園、週3日の幼稚園給食を取り入れた。</p> <p>岸和田市でも、今年度から、修斉幼稚園から子どもたちが天神山幼稚園に週3日やってきて、一緒に給食を食べている。素晴らしい取組だと思うが、この素晴らしい取組をやめるということについて、検証はなされていないとのことであった。</p> <p>これらについては教育委員会だけでなく、市長部局のこども園推進課からも計画が出されており、一度目の幼保再編計画は議会で否決され、すべての施設を民営化する方針から、6園の公立園を設置する方針に変更されているが、葛城の谷においては太田校区で公立園を設置する一方、天神山地区近辺は民間園が設置されるということであった。太田幼稚園と旭幼稚園と旭保育所の子どもたちは、新たな太田こども園に入れるということだが、天神山幼稚園、修斉幼稚園や修斉保育所の子どもたちは入れられないということであり、説明会で怒られている。その結果、現案が議会を通らない可能性もある。幼保再編の取組が頓挫し、小中適正化の取組が進む場合、天神山幼稚園だけが残ると思うが、どうするのか。</p>	<p>今回の適正規模・適正配置の取組と、幼保再編の取組と密接に関わっていることは、仰るとおり。</p> <p>そのため、天神山幼稚園を含めた、葛城の谷にあるいくつかの幼稚園については、幼保再編における前期計画ではなく、中期・後期計画において、小・中学校適正化の状況を見極めながら、具体的な案をお示ししている。</p> <p>今後も、幼保再編の取組と整合性を取りながら、適正規模・適正配置の取組を進めていく。</p>
35	12.2(木)	天神山	発言者L	<p>今後も小・中学生の人数は減っていくという資料を示しているが、それでいけば、今後、野村中学校が適正化対象校になると思われる。20年後には、北中学校も適正化対象校になると思われる。そうなれば、第3次案や、第4次案が必要になってくる。全体計画がないではないか。</p>	<p>言及いただいた学校については、現在適正化対象規模ではないため、今回の計画（案）における適正化対象校として示していない。</p> <p>今後、基本方針で示す、適正化を検討する規模の学校が生じてくれば、今回のように実施計画（案）を策定し、地域や保護者の皆様と協議を行いながら、取組を進めていくことになる想定している。</p>
36	12.2(木)	天神山	発言者L	<p>今回示された計画（案）の説明と一緒に、小中一貫教育の説明も行われている。小中一貫教育基本方針は市全体に関わる話なのだが、なぜ適正化に関係する校区だけで説明し、他の校区では説明しないのか。</p> <p>小中一貫教育基本方針は、小規模校をつぶすために策定されたようにしか思えない。</p>	<p>今回は適正規模・適正配置実施計画（案）の説明会ということで、その中で小中一貫教育ということに触られることから、内容の説明が必要だと判断し、合わせて説明を行っているところ。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
37	12.2(木)	天神山	発言者M	<p>中学校の校舎周辺には、たばこの吸い殻やお菓子の包み紙が捨てられている。今は少なくなっていると聞いているが、小中一貫校にすれば、そのような光景を小学生が見ることになる。他にも、帰りの買い食い、教師への暴言などもある。</p> <p>そのような問題行動に対し、教育委員会は、現場教員に見回りを強いるが、現場教員の負担は大きい。</p>	<p>中学生による問題行動は存在するが、教員は子どもたちに向き合いながら改善に取り組んでいる。</p> <p>これらの問題は、学校の規模に関わらず、市全域で改善に向けて取り組んでいく必要があると考えている。</p>
38	12.2(木)	天神山	発言者M	<p>以前の説明会で、小中一貫校における小・中学生の運動場の使い方について、「時間で区切ることを考えている」といった回答があった。運動場を使えない子どもはどのようにするか。教室内で遊ぶのか。</p> <p>仮に図書室へ行くにしても、中学生が集まっているだろう。校舎の裏のような場所へ小学1年生の女の子が行ってしまい、怖いことになる可能性もあると聞く。</p> <p>そうならないように、教員が見回るとなれば、また負担になる。教育委員会は現場に負担をかけてばかり。毎日、雨の日も風の日も学校へ見学に来て現場を知るべき。</p>	<p>（仮称）葛城小中一貫校の整備にあたっては、現在の葛城中学校の敷地で、国の基準を満たした整備が可能だと考えている。</p> <p>その中で、児童生徒にとって、より活動しやすいスペースの確保について、地域や保護者の皆様とも意見交換を行いながら、検討していく。</p> <p>なお、教員負担については、現場での経験から十分に理解している。働き方改革の必要性も認識しており、負担軽減に努めていく。</p>
39	12.2(木)	天神山	発言者M	<p>通学路が遠くなることへの対策にスクールバスを挙げるが、スクールバスに乗り遅れた子どもへの対応はどのようにするか。保護者が送迎するのか。これも教員や保護者に丸投げするのか。</p> <p>誰も小中一貫校を望んでいない。教育長がしたいだけではないのか。こんなデメリットだらけの学校に、自分たちの子どもや孫を通わせたいと思えるのか。小中一貫教育は大切だというが、一貫した教育の取組は今も行っているではないか。わざわざ小中一貫校にする理由が、教員の行き来がしやすいといったことだが、子どもの立場に立っていないではないか。</p>	<p>スクールバスの具体的な運用については、今後（仮称）学校開校準備委員会において、地域や保護者の皆様のご意見も踏まえながら決定していく。</p> <p>なお、スクールバスの運行時間について、先進事例を視察した際に尋ねたところ、乗り遅れる可能性があるから便数を増やしてほしい、といった保護者からの声は出ていないと伺っている。</p> <p>また、小中連携教育はすでに行われているところ、これをさらに発展させた形で、市全域での小中一貫教育に取り組んでいく。</p>
40	12.2(木)	天神山	発言者M	<p>この計画を白紙に戻すにはどうすればよいか。</p>	<p>現時点から取組を進めなければ、さらに児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進むため、仮に反対意見が多いからといって、すぐに白紙に戻すということではなく、何が子どもたちにとって望ましい環境なのか、という視点に立ち、地域や保護者の皆様との協議を重ねていく。</p>